２００８／０１／０６　　礼拝メッセージ　　近藤修司　牧師

主　　題：神の福音４
聖書箇所：ローマ人への手紙　１章５－７節

「パウロ、キリスト・イエスのしもべ、使徒として召され、神の福音のために選び分けられた者」、そのようにパウロは自分のことを紹介した後、話を「神の福音」についての説明へと展開して行くことを私たちは見ています。「神の福音」とはいったいどういうものなのか？彼はこの２節から６節、中線のところに説明をしています。

☆神の福音とは？

１．神からのメッセージ

つまり、この福音のメッセージの出所は人ではなく神であること、神が預言者たちを使ったのであって、預言者が自分たちの勝手なメッセージを伝えたのではないことをパウロは教えてくれたのです。

２．旧約聖書の成就

しかも、パウロが生み出した新しいメッセージではなく、旧約聖書の成就であることを見ました。

３．福音はイエスである

このメッセージの核心はイエスです。イエスがいったいだれなのか？イエスがいったい何を為さったのか？それがこの福音のメッセージの中心なのです。イエスは御子であるとパウロは言いました。イエスが父なる神と本質的に等しいことを表わす呼び名であると、私たちはすでに学びました。パウロは、敢えて、そのような呼び名、称号を使うことによって、このイエス・キリストこそ真の神である、父なる神と同等であることを教えました。そして、イエスが私たちのために何をしてくださったか？先ず、人としてこの世にお見えになった、ダビデの子孫としてお生まれになった、このイエスの誕生という事実も、私たちにこの方こそが約束されていた救世主であることを教えてくれたのです。神であるイエスが罪人を救うためにこの世に人となって来てくださったのです。そして、この方は十字架に架かって私たちのために贖いを成し遂げてくださった後、約束通り三日後に、その死から肉体をもって敢然とよみがえられました。この復活という事実が、彼が真の神であるということを明らかにしたのだということを私たちは見て来ました。イエスが力ある神の御子であることをこの復活がはっきりと証明したのです。**「大能によって公に神の御子として示された方」**であると、そのようにパウロは４節で説明しています。パウロが言いたかったこと、それは、確かに人としてイエスがこの世に来られたときには隠されていたことが、この復活によって明らかにされた、つまり、この方は力に満ちあふれた神であるということが明らかにされたのです。ですから、イエスは復活によってだれか別の人物になったのではありません。復活によってイエスがいったいだれだったのか、その本当の姿が明らかにされたのです。イエスは主である、主イエス・キリスト、すべての主権者なる神であり、そして、救い主キリストであられるお方、この方によって信じるすべての人に罪の赦し、救いが与えられるのです。今までこのことを見て来た訳ですが、パウロは繰り返し「神の」ということばを強調しています。「神の福音」であり、「神のメッセージ」だと言います。そして、「神の預言者たち」を神は使ったと、そして、これは「神の御子に関すること」だと言います。ですから、パウロがはっきり私たちに伝えようとしていることは「イエスがいったいだれなのか」、この福音のメッセージは人間が生み出したものではなく、神から私たちに与えられたものであるということを強調し続けているのです。使徒４：１２には**「この方以外には、だれによっても救いはありません。世界中でこの御名のほかには、私たちが救われるべき名としては、どのような名も、人間に与えられていないからです。」**とあり、まったくその通りです。みことばが教えていることは、神が私たち罪人に与えられた唯一の希望、救いの道はこのイエス・キリストだけであり、与えられた唯一の名はこのイエス・キリストだけだということです。その三つのことを私たちは見て来ました。その後、パウロはまだ福音についての説明を続けて行きます。

４．福音は神からの贈り物である　　５節

５節**「このキリストによって、私たちは恵みと使徒の務めを受けました。」**、パウロは神は一方的にこのすばらしい恵みと、すばらしい務めを私たちに与えてくださったと言います。パウロはここで復活の主から与えられた二つのものを記しています。一つは「恵み」であり、もう一つは「使徒の務め」です。

（１）恵み

「恵み」とは、受けるに値しない、ふさわしくないご厚意であり恩恵です。「恵み」とは私たちが受けるにふさわしいものではないということです。もし、ふさわしいのならそれは恵みではありません。神が私たちに与えてくださるもののどれ一つ見ても、私たちが受けるのにはふさわしくないのです。だか

ら、恵みによって私たちは祝されているのです。このように神に逆らい続ける人々に神は太陽を与え自然の恵みを与えておられる、なぜでしょう？神が恵み深いからです。私たちクリスチャンは救いに与っていながら、毎日の生活の中で神を悲しませることの多い者ですが、その私たちに対しても、神は赦しを与え、私たちにすばらしい祝福を与えてくださっています。どれ一つ見ても、私たちは「当然です、こういうものを受けて当然です」と言えるものは何一つないと言うのです。生きていることもそうだし、私たちが日々口にするものもそうです。私たちがいただいているその一つ一つを見るときに、何一つとしてそれは私たちに与えられて当然だというものはない、すべて神の恵みなのです。その中でも特にパウロが強調している恵みというのは「救い」であることは明らかです。神に逆らい続けて来た私に神がくださったものは、それにふさわしいさばきではなくて、神は救いをくださった、神は私に恵みを与えてくださったと言うのです。パウロはローマ５：８でこの恵みに関してこのように言います。**「しかし私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます。」**と。悲しいことは、多くの人々が自分のことを神は愛してくださっていないのではないかと神の私たちに対する愛を疑ってしまうことです。もし、そうなら、私たちはしっかり十字架を見上げたらいいのです。それはあなたが愛されていることの証です。神が人となってそのいのちをあなたのために喜んで捨ててくださった、そこまであなたは愛されていると。

また、テトス３：４－５でもパウロは恵みに関してこのように言っています。**「しかし、私たちの救い主なる神のいつくしみと人への愛とが現われたとき、:5 神は、私たちが行なった義のわざによってではなく、ご自分のあわれみのゆえに、聖霊による、新生と更新との洗いをもって私たちを救ってくださいました。」**。５節のみことばは明確に私たちに教えてくれています。それは**「私たちが行なった義のわざによって」**私たちが救われたのではないのだということです。私たちは自分の良い行ないによって神の救い、罪の赦しをいただくことができるのかというと、みことばは明確にできないと言います。また、このみことばは良い行ないだけでなく、宗教を一生懸命信奉したらそれによって救われると教えているのでしょうか？それに対してもみことばはそれは有り得ないことだと言います。なぜなら、**「私たちが行なった義のわざ」**と言っています。私たちが考える正しいわざ、私たちがこうすれば救いに与れるのではないか？こうすれば罪が赦されるのではないか？こうすれば天国に行けるのではないか？と私たちがそのように思って、それを一生懸命守ろうとしたとしても、百歩譲って、あなたがそれを全部守ったとしても、あなたは天国に入るには未だふさわしくないと神は言われていると言うのです。あなたがどんなに義なる正しいことと思ってそれを一生懸命したとしても、実は神の前にそれは受け入れられる完全なものではないと言うのです。イザヤ書６４：６でイザヤはこのように言います。**「私たちはみな、汚れた者のようになり、私たちの義はみな、不潔な着物のようです。…」**、つまり、私たちがどんなに正しいと思うことをしても、神の前にはそれは不潔な汚れた着物のようものだ、触りたくもないような、どこかの戸棚に残しておきましょうなどとだれも思わない、ただ、それをつまんでゴミ箱に捨てて処分してしまう、そのようなものだとイザヤは私たちに教えるのです。ですから、皆さんが頑張って良い人間になろう、そうすれば救われるのではないかと思っているなら大きな間違いです。あなたはどんなに自分を変えようとしても、どんなに正しいことをしようとしても、あなたの良い行ないも、宗教に対する信奉心も、そのような行ないはあなたを罪から救うことはできないとパウロは明言するのです。神は**「私たちが行なった義のわざによって」**ではないと言います。

では、何によって救われるのでしょう？何によって罪が赦されるのでしょう？彼は言います。**「ご自分のあわれみのゆえに、」**、神のあわれみのゆえに救われるのだと。神の一方的な恵みのことを話します。テトス３：５をもう一度見てください。**「聖霊による、新生と更新との洗いをもって私たちを救ってくださいました。」**と書かれています。

（ａ）新生：これは［再び］ということばと「誕生、発生」ということばの合成です。ですから、新しく生まれ変わるということです。このことばは新約聖書の中にこの箇所とマタイの福音書１９：２８にしか出てこないのです。マタイ１９：２８では**「まことに、あなたがたに告げます。世が改まって人の子がその栄光の座に着く時、…」**と**「世が改まって」**、世の中が改まることを言っており、少し違う意味です。ですから、世のことではなく、私たちのことを言っているのはここだけです。ここで**「新生」**ということばをパウロはどのような意味で使ったのでしょう？日本語の聖書では**「新生」**とは非常によく分かることばを使っています。「新しく生まれ変わることである」と。このことは新約聖書に中で繰り返し教えられて来たことです。ニコデモという律法の専門家がイエスのところに来たとき、イエスが言われたことは**「まことに、まことに、あなたに告げます。人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません」**でした。同じヨハネはⅠヨハネ５：１でこのように言います。**「イエスがキリストであると信じる者はだれでも、神によって生まれたのです。」**と。肉体的な誕生のことを言っているのではないことは明らかです。霊的に新しく生まれ変わることを言っているのです。ですから、イエス・キリストを信じる者はだれでも神によって生まれた、新しく生まれ変わるということです。ですから、この罪深い私たちが新しく生まれ変わる

こと、天国に入るのにふさわしい者に変えられる、その新生というのは、私たちの行ないによっては得ることができない、それは神の一方的なあわれみによって与えられるのだとパウロは言います。
（ｂ）更新：もう一つ、**「更新」**ということばが出て来ます。これは「新しくする、一新する」という意味です。このことばはここでは名詞形ですが、その動詞形は新約聖書の中に二箇所出て来ます。名詞形も二箇所です。動詞形はⅡコリント４：１６**「ですから、私たちは勇気を失いません。たとい私たちの外なる人は衰えても、内なる人は日々新たにされています。」**と、この**「新たにされる」**ということばが「一新される、新しくされて行く」という意味で使われているのです。もう一つの動詞形はコロサイ３：１０です。**「新しい人を着たのです。新しい人は、造り主のかたちに似せられてますます新しくされ、真の知識に至るのです。」**と、ここでは**「新しくされ」**と記されています。だれによって新しくされて行くのでしょう？これは受身形です。私たちは新しくされて行く、それは神によって新しくされて行くのです。それはいつからでしょう？私たちが救われたときから新しくされ続けて行くのです。**「造り主のかたちに似せられてますます新しくされ」**と、ですから、現在形で記されています。そのようにして神は私たちを少しずつ主に似た者へと変えて行こうとされるのです。ここで言われている「新しい」というのは「質において新しい」ということです。ということは、救われる前とは全く異なる者へと神は継続して変えて行ってくれるということです。だから、クリスチャンというのは変わって行く、救われた人は変えられ続けて行くと言います。
　この**「新生と更新」**ということば、**「新生」**は新しく生まれ変わることでしたが、新しく生まれ変わるために、私たちは何かをする必要がありましたか？良い人間になるために努力しなさいとか、良い行ないを継続しなさいとか、そうすれば神は結果的に…と、そのようにはみことばは教えていません。神の一方的な恵みによって私たちは生まれ変わるのです。ところが、この**「更新」**ということばについて私たちが考えるときに、先ほども見たように、このことばの動詞形が二つのところに出て来ましたが、このことばがローマ１２：２に記されています。**「この世と調子を合わせてはいけません。いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえ知るために、心の一新によって自分を変えなさい。」**と、この**「一新」**ということばです。「更新」と訳された同じことばがここでは**「一新」**と訳されています。この１２：２を見ると、「救い」に関して私たちが何かできるか？何もできない、一方的に１００％神のみわざであると教えられています。では、救われた者として、その生活において私たちは何もしなくて良いのでしょうか？決してそうではありません。**「心の一新によって自分を変えなさい」**と、つまり、私たち自身はこの世にあって、神の前に正しく歩み続けて行こうとするのです。私たちは神のみことばに従い続けて行こうとするのです。クリスチャンは「私を変えることができるなら変えてみなさい」と、そのような態度で神の前に立とうとしているのではありません。私たちは神に対して、このみことばに対して「神さま、私はそのみことばに従って行きたいです」と、そのような歩みを通して、そのような歩みを用いて神は私たちを変えて行かれるのです。日々新たな者に私たちを変えて行かれるのです。「新生」に関しては１００％神のみわざです。「更新」に関しては私たちに責任があるということをみことばは私たちに教えてくれています。
　さて、私たちはこの「恵み」というすばらしい神のみわざを「テトスへの手紙」の中から見て来ました。神の**「あわれみのゆえに、聖霊による、新生と更新との洗いをもって私たちを救ってくださいました。」**と。クリスチャンである皆さん、私たちがしっかり覚えておかなければいけないことは、このように受けるにふさわしくない者に神は恵みを与えてくれたのです。あなたの罪は完全に赦されました。完全に赦され、完全に聖められ、東が西から離れているように完全に私たちから罪を引き離してくださった、もう私たちは罪人としてさばかれることはないのです。東が西と絶対に出合わないように、私たちから罪を引き離してくださった、神は私たちの罪を永遠に思い出されることはないと。救われたのです、赦されたのです。こんな罪深い愚かな者が一方的な神の恵みによって…。何という恵みを神は私たちのような者に与えてくださっているのかです。
（２）使徒の務め
　もうすでに受けている、「神の恵み」を、そして、「使徒というこの務め」をと言います。この「使徒の務め」と言ったとき、私たちが最初に思うのは、１：１でパウロ自身が自分の紹介をしたときに「使徒として召された」と言いました。パウロは同じことを繰り返しているのかと思いますが、そうではなさそうです。なぜなら、この５節には**「私たちは恵みと使徒の務めを受けました。」**とあります。しかも、このみことばはローマの教会のクリスチャンたちを巻き込んでいます。私と誰々は使徒の職を受けたと、それは１節でパウロが言いました。パウロは５節で救いの恵みのことを言って、そして、パウロが言うことは「私たちはこのキリストによってこのような救いをいただき、そして、使徒の務めをいただいた」ということです。こう言ったときに、この「使徒」と訳されていることばは、１節で見たあの１３人の特別な人々、それ以外の人たちも含む「使徒」という意味ではないかと思うのです。「使徒」ということばは「任務を負わされて派遣された者たち」なのです。そういう意味もあることばなのです。というこ

とは、神の恵みによって救われた一人ひとりには、神は大切な務めを与えてくれているのです。どのような務めでしょう？私たちは出て行ってこのキリストを証するという務めです。どのような務めであろうと、牧師であろうと、宣教師であろうと、会社員、主婦、学生であろうと、何であろうと、神の恵みによって救われた私たちが覚えておくべきことは、救われた私たち一人ひとりには神から大切な務めが与えられているということです。その務めはこれから与えられるというのではありません、救われたときに神によってすでに与えられたのです。それは、このキリストのすばらしさを私たちが証して行くことです。Ｉコリント９：１６－１７でパウロはこう言います。**「というのは、私が福音を宣べ伝えても、それは私の誇りにはなりません。そのことは、私がどうしても、しなければならないことだからです。もし福音を宣べ伝えなかったら、私はわざわいに会います。もし私がこれを自発的にしているのなら、報いがありましょう。しかし、強いられたにしても、私には務めがゆだねられているのです。」**と、つまり、パウロ自身は「私は神からすばらしい大切な務めをいただいた」と言います。どのような務めでしょう？「福音を宣べ伝える」という務めです。この務めというのは皆さんご存じの通り、ある特定の限られた人々にだけ与えられた務めではありません。あなたが神の恵みによって救われているのなら、間違いなく、あなたにはこの務めが与えられています。だから、イエスはマタイの福音書５：１３－１４で**「あなたがたは、地の塩です。もし塩が塩けをなくしたら、何によって塩けをつけるのでしょう。もう何の役にも立たず、外に捨てられて、人々に踏みつけられるだけです。:14 あなたがたは、世界の光です。山の上にある町は隠れる事ができません。」**と言われました。ある限られた人だけが**「地の塩」、「世界の光」**と言ったのではありません。**「あなたがたは」**です。そして、その後にこのように続きます。１５－１６節**「:15 また、あかりをつけて、それを枡の下に置く者はありません。燭台の上に置きます。そうすれば、家にいる人々全部を照らします。:16 このように、あなたがたの光を人々の前で輝かせ、人々があなたがたの良い行ないを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようにしなさい。」**と、**「あなたがたが」「良い行ない」**をすると言うのです。**「あなたがたが」**人々の前で光を輝かせるのです。あなたが証し人だと言っているのです。あなたがこのすばらしい主の証をして行くのだと言っているのです。だから、人々はあなたではなくあなたのうちに働いている神を崇めるようになると言うのです。だから、私たちがすることは、私たちのすばらしさではなく、私たちの主のすばらしさを人々に証するのです。どんなにこの神が偉大な方であり、どんなにすばらしい愛とあわれみをもっておられるのか、どんなにすばらしい救いを備えてくださったのか、どんなにすばらしい祝福を与えてくださるのか、そのことを私たちが人々の前で明らかにして行くのです。そのことによって、それを聞いていた人々も同じようにこの救いに与って、神を崇める者に変えられて行くのです。

この神の福音、救いのメッセージは私たちにすばらしいものを与えてくれました。この福音によって私たちは救いをいただき、救われた私たち一人ひとりにはすばらしい神からの務めが与えられています。クリスチャンの皆さん、そのことを私たちは忘れてはいけないのです。この救いを私たちが今楽しみ、永遠という希望を持って生きて行くことができるのは、私たちが何かをしたからではないし、私たちの生まれ育った環境も関係ありません。一方的に神があなたをあわれんで、あなたをこのような救いへと導いてくださった神の恵みによるのです。だから、私たちはこの方をほめ称え続ける必要があるのです。同時に、私たち一人ひとりはこのキリストの福音を宣べ伝えるという大きな責任を負っていることを忘れてはいけないのです。私たちは証し人です。そのために主が救ってくださり、そのために私たちを生かしてくださっているのです。神の福音、それは私たちに与えられた神のすばらしい贈り物です。

５．生きる目的を変えるもの

５節でこう言います。**「それは、御名のために」**と。福音とは生きる目的を変えるものなのです。私たちの生きる目的を変えるものです。何のために私たちは生きて来たのでしょう？イエスを信じてこの罪の救いに与るまでは、私たちは自分のために、自分の名誉のために生きて来ました。自分がすべての中心であり、自分を満足させ喜ばせるために生きて来たのです。ところが、この福音によって私たちが生まれ変わることによって、私たちは新しい目的をもって生きる者となるのです。どのような目的でしょう？すべてのことを神の栄光のためにしようというのです。この**「御名のために」**と言います。何度も説明しているように、**「御名」**というのはただの名前というよりもその人のすべてを指しています。御名のために働く、御名のために出て行く、それはその方のために働きを為す、その方のために出て行こうとする、そのことを言っているのは明らかです。ですから、パウロは５節で「私たちは御名のために生きる者とされたのだ」と言っているのです。ですから皆さん、私たちはすべてのことを神のためにしようとします。どんなことでも、これまでは自分のためにしようとした、あるいは、人のためにしようとしたかもしれない、でも、神のためにしようとはしていなかった、私たちの生き方が変わったのです。本来の創造された目的に沿って生きる者になったのです。すべてのことをこの神のためにしようとするのです。

６．生き方を変えるもの

そして、もう一つ、この５節が私たちに教えてくれます。**「…あらゆる国の人人の中に信仰の従順をもた**

らすためなのです。」と。パウロが非常におもしろいことを言っています。この福音によってその生きる目的が変えられるだけではない、生き方自体が変えられると言うのです。福音を信じた人々は生き方が変わるのです。ですから、パウロはここで**「信仰の従順をもたらすため」**だと言うのです。ただ救いと言わず、**「信仰の従順」**と言いました。というのは、私たちが今まで見て来たように、すべてのクリスチャンはキリストの奴隷です。パウロがそのように言ったように、私たちはキリストのしもべでであって、主人である方に従って行く者、それが私たちの生き方です。この主人を何とか喜ばせたいとして私たちはこの方に従って行くのです。主人が自分のために支払ってくださった大きな犠牲に対して私たちができることは、この方に感謝をして、この方に従って仕えて行くことです。そのような信仰の態度、たとえば、マタイの福音書８章で、百人隊長がイエスに話をしたときに彼はこのように言いました。マタイ８：９**「と申しますのは、私も権威の下にある者ですが、私自身の下にも兵士たちがいまして、そのひとりに『行け。』と言えば行きますし、別の者に『来い。』と言えば来ます。また、しもべに『これをせよ。』と言えば、そのとおりにいたします。」**と、主人としもべの関係です。上官とそれに仕える者たちの関係です。上の者が**「これをせよ」**と言えば下の者は従うのです。自分のしもべに「こうしなさい」と言うと、その通りにするのです。この当時の社会にあってそのような関係が存在していたのです。パウロが「私はキリストのしもべ、キリストの奴隷です、だから、私はキリストが望まれることを忠実に行って行こうとする、なぜなら、私はしもべにすぎない、奴隷だから」ということ、それは私たちクリスチャンも同じことです。ですからパウロは「救われて天国に行けるようになるために」と、そのようには言っていないのです。**「あらゆる国の人人の中に信仰の従順をもたらす」**と、これが「救い」だと言うのです。「私は天国に行けるようになりました、だから私はこれから好きなように生きます」というのは、聖書が教えている救いではありません。本当に救われた人々とは、信仰において神に対して従順に従って行こうとする者なのです。そのように生まれ変わるのです。

ローマ６：４に**「私たちは、キリストの死にあずかるバプテスマによって、キリストとともに葬られたのです。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちも、いのちにあって新しい歩みをするためです。」**とあります。私たちはもうキリストとともに死んで、キリストとともによみがえったのだと言います。私たちは何のために救われたのか？生まれ変わった私たちはどのように生きて行くのか？これまでと同じ生き方をしないのです。私たちは**「いのちにあって新しい歩みをする」**のです。それがクリスチャン、救われた者たちなのです。自分が勝手に救いを取るのではありません。神が私たちに救いを与えてくれるのです。神が働いてくださるから救われた人には変化が生まれるのです。その人は信仰において従順な者になる、そのようにパウロが言うのです。新約聖書の翻訳学の教授だったA･T･ロバートソン先生は「信仰の従順とは信仰から湧き上がって来る従順だ」と言います。一生懸命、従順に生きましょう、そうすれば神が救ってくれるから…、そうではないと私たちは見て来ました。では、どうしてあなたは従順に歩み続けるのでしょう？それは信仰がその人のうちにあるから、その人が救われているからです。救われているから、その結果として神に従って行こうとするのです。

神学学者のリオン・モリスは「従順は選択肢ではない。」と言っています。それは救われた者に神が与えてくれるものです。だから、ヨハネはⅠヨハネ２：３でこのように言います。**「もし、私たちが神の命令を守るなら、それによって、私たちは神を知っていることがわかります。」**と、もし、私たちが神の命令を守るなら、その行為が私たちが神を知っていること、つまり、救われていることが明らかにされるのだと言います。つまり、救われている人々はどのようにして救われていることがわかるのか？神の命令に従って行こうとしているかどうかです。ヤコブの手紙２：１４－２６を見てください。**「私の兄弟たち。だれかが自分には信仰があると言っても、その人に行ないがないなら、何の役に立ちましょう。そのような信仰がその人を救うことができるでしょうか。:15 もし、兄弟また姉妹のだれかが、着る物がなく、また、毎日の食べ物にもこと欠いているようなときに、:16 あなたがたのうちだれかが、その人たちに、「安心して行きなさい。暖かになり、十分に食べなさい。」と言っても、もしからだに必要な物を与えないなら、何の役に立つでしょう。:17 それと同じように、信仰も、もし行ないがなかったなら、それだけでは、死んだものです。:18 さらに、こう言う人もあるでしょう。「あなたは信仰を持っているが、私は行ないを持っています。行ないのないあなたの信仰を、私に見せてください。私は、行ないによって、私の信仰をあなたに見せてあげます。」:19 あなたは、神はおひとりだと信じています。りっぱなことです。ですが、悪霊どももそう信じて、身震いしています。:20 ああ愚かな人よ。あなたは行ないのない信仰がむなしいことを知りたいと思いますか。:21 私たちの父アブラハムは、その子イサクを祭壇にささげたとき、行ないによって義と認められたではありませんか。:22 あなたの見ているとおり、彼の信仰は彼の行ないとともに働いたのであり、信仰は行ないによって全うされ、:23 そして、「アブラハムは神を信じ、その信仰が彼の義とみなされた。」という聖書のことばが実現し、彼は神の友と呼ばれたのです。:24 人は行ないによって義と認められるのであって、信仰だけによるのではないことがわかるでしょう。:25 同様に、遊女ラハブも、使者たちを招き入れ、別の道から送り出したため、その行ないによって義と認められたではありませんか。 2:26 たましいを離れたからだが、死んだものであるのと同様に、行ないのない信仰は、死んでいるのです。」。**

ヤコブが言いたかったことは、本当の信仰には必ず行ないが伴うということです。何か特別な行ないをしたから神が救ってあげようというのではないのです。救われたら必ず行ないが出るのです。ですから、神に従って行こうとする、神のみことばに、その命令に従って行こうとする、そのような従順な生き方は、その人が神の救いに与っているからだと言うのです。

私たちのこの国においても様々な宗教が存在するわけで、私たちもその中にいました。このようなお務めを守らないと何か災いが訪れるのではないか？自分の願いを叶えてもらえないのではないか？と…。私たちの信仰はそうではありません。キリスト信仰というのはそうではないのです。キリスト信仰というのは、私たちが何を神のためにするのかではないのです。私たちの信仰は、神が何をしてくれたかに立っているのです。人間の宗教は神のために一生懸命何かをしようとするのです。でも、私たちの信仰、聖書が教えてくれる信仰、この救いというのは、私たちは神がしてくださったみわざに立っているのです。そのことを私たちがしっかり覚えるときに、私たちは内側からその主のために何かしたいと思うのです。それが私たちの生き方として現われて来るのです。ただの義務感、恐れでするのではないのです。これをしなければ、教会に行かなければ、何か奉仕をしなければ、神は私に災いをもたらすのではないかとか、奉仕をしなければ、このように働きを続けないと神は私の願いを聞いてくれないのではないか…、そのようなことはありません。神がもう私たちのために為してくださったあの十字架のみわざを見るときに、この方に対して私は何をもって報いましょうとなるのです。私たちの信仰、私たちの生き方、それはこの神に対する深い感謝と愛に基づいたものです。だから、パウロはこのようにして出て行ったのです。このようにしてキリストのすばらしさを証しようとしたのです。パウロはこのキリストの福音を誇りとしたのです。こんなにすばらしいみわざを主が私のためにしてくれた、感謝です、私はあなたのためだけに生きます、私はあなたに喜んで従って行きます、あなたは私の主人であり、私はあなたの奴隷ですと。皆さん、これが福音によって救われた信仰者の生きざまなのです。福音がこのようなことを信じる一人ひとりのうちに為してくれるのです。

福音は神からのメッセージでした。旧約聖書に預言されていた教えであり、イエスがそのメッセージそのものでした。また、福音は神からの贈り物であり、人生の目的を変え、生き方まで変えるものでした。この福音がまさにこのように言われているものであること、この福音の真実さを証するのは、あなたです！この福音が真実だ、本当にこのようなすばらしものだと証して行くのは、だれかではないのです、あなたです！この救いに与ったあなたなのです。生まれ変わったことを明らかにするのがあなたに与えられた務めです。皆さん、このすばらしい福音のメッセージを神は私たち限られた者にだけに与えたのではありません。みことばが教えてくれたように**「あらゆる国の人人の中に信仰の従順をもたらすためなのです」**と、神はこの救いのメッセージを世界のすべての人々のために与えてくださった、そして、そのメッセージを伝えて行くというすばらしい務めを神はあなたに与えてくれたのです。確かに、私たちがしなければならないことはたくさんあります。でも、一番に私たちがしっかりと為して行かなければいけないことは、このすばらしい恵みに満ちあふれた神のことを伝えて行くことです。そのためにあなたは救われ、そのためにあなたは生かされ、そのために神はあなたを今のところに置いてくださっています。私たちはこの方を証する者として歩み続けて行くことです。この方のすばらしさがより多くの人々に明らかにされるために。